

くすのき



校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校
学校だより 第18号
文責 校長 西村羊治
令和6年5月31日

すべての相手の立場に立った思いやりと言動を（人権学習）

県内の各小中学校では、人権学習に取り組んでいます。菊池郡市・合志市もそうです。合志市人権教育推進協議会や西合志中学校区小中合同職員研修においては、轟支部長の講話をお聞きする場も昨年引き続き設けました。部落差別（同和問題）、ハンセン病や水俣病に関する差別事象もいまだにマスコミに取り上げられることがあります。人間が引き起こしたのですが、差別の根強さや解消に至らないもどかしさを感じています。



話をする小林教諭

5月30日（木）本校においても人権月間に向けて、全校による人権集会を開きました。人権教育担当教員である小林教諭から「なかまづくり」を主にして、「みんなのいいところを探していきましょう！」との話がありました。キャッチフレーズは、「みんなが仲良く、楽しく安心して自分らしくいられる学校！」です。みんなが、周りのみんなの「いいところ」をたくさん探して、88人全員で心が温くなるメッセージをたくさん書いて欲しいと思います。

私も話をさせていただく時間をいただきました。私はいつも「命」と「成長」のことを子ども達に話しています。子ども達も校長先生の話は「命と成長」と多くの子が理解してくれています。成長にはいろいろなことがあります。今回は「心」と3年生の男の子が発言してくれました。その通りです。私は子ども達に聞きました。学校の中で「きもい、うざい、あっち行け」などの言葉を聞いたことがありますかと。8割近くの子が手を挙げました。子ども達は言います。「そんな言葉が聞かれない学校がいい」と。しかし、そのような言葉が聞かれ、授業中シャツを出し、姿勢をくずし、勝手にしゃべっていたり、クラスの同級生にいやなこと言ったりすることがあります。学校という集団の中なので、多くの学校であることです。しかし、してはいけないことだし、相手のことを考えていない行動だし、いじめや差別に発展することもあるかもしれません。松谷みよ子さんの絵本に「わたしのいもうと」という作品があります。去年はみんなに読み聞かせしましたが、今回は表紙を見せるだけでした。いじめられて最後は命をなくしてしまうという悲しい内容です。実話をもとにつくられているので、子ども達には、「ただのふざけや悪気がなかったとしても、相手を傷つける言動はしてはならない。」と言っています。

しなければならないことはやる、してはいけないことはしない、相手の立場に立って物事を考えた言動をする、人のいいところを見つけて喧嘩をしない努力をするなど、できる子はたくさんいますが、できていない子もいます。だからトラブルや喧嘩が起きてしまいます。西合志第一小学校の88名一人一人はみんないい子です。しかし、まだまだ心の面で成長しなければなりません。「あなた達ならできます。」

是非、各ご家庭においても人権や一人一人の大切な命について話題にさせていただき、すべての人と仲良くすることの大切さについて話していただければありがたいです。よろしく願いいたします。



話を聞く子ども達